

カンロ株式会社

本社所在地	東京都新宿区西新宿3-20-2東京オペラシティビル37階
設立	1950年5月6日
売上高	29,015百万円(2023年12月期)
会社URL	https://www.kanro.co.jp/
環境保全関連URL	会社HP ~ サステナビリティ ~ https://www.kanro.co.jp/csr/ 会社HP ~ 総合報告書 ~ https://www.kanro.co.jp/ir/library/annual/
サステナビリティデータ	会社HP ~ ESGデータ集 ~ https://www.kanro.co.jp/csr/esg/

持続的成長に向けた環境方針・目標

■ 事業を通じた環境負荷削減 基本方針

気候変動に対応するため温室効果ガス排出量削減を目指します。また、資源循環型社会実現に貢献すべく、食品廃棄物や使用するエネルギーの削減にも取り組みます。

アプローチ・KPI

マテリアリティ	アプローチ	KPI
気候変動	温室効果ガス総排出量 (Scope1,2,3) を削減する	<ul style="list-style-type: none">● 2030年までにScope1,2の総排出量を2019年比50%削減● 2030年までにScope3の総排出量を2019年比30%削減● 2050年までにカーボンニュートラル達成
資源循環と廃棄物削減	食品廃棄物を削減する(売上高原単位)	● 2030年までに2019年比30%削減(売上高原単位)
	商品容器に環境にやさしい素材 (バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙等)を使用	● 2030年までに30%使用
	使用するエネルギーを削減(生産重量原単位)	● 毎年、1%以上削減(生産重量原単位) ※5年間で5%削減(資エネ法)
持続可能な原材料の調達	サプライチェーンにおけるサステナブル調達	

推進体制

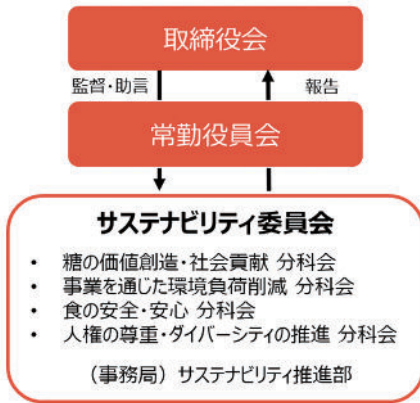
■ サステナビリティ推進体制

当社は、2022年4月に全社員がサステナビリティへの意識をより一層高め、これまでの取組みを深化させることを目的として、各部門より選出された委員から構成される組織横断の「サステナビリティ委員会」を新設。サステナビリティに関する基本方針、推進体制、気候変動によるリスク・機会の分析、

CO₂排出量など各KPI進捗状況並びに今後の対応策などを協議している。サステナビリティ委員会で協議された内容は定期的に常勤役員会、取締役会へ報告され、取締役会が監督・助言をするとともに、重要事項は取締役会の決議で決定されている。

2024年1月からは社長がサステナビリティ委員会の委員長を務め、執行役員が分科会のリーダーを務める体制となり、施策の実行部隊としてサステナビリティ推進部を経営企画本部傘下に新設。また、サプライチェーン全体を考えた商品設計など事業活動と連携し、サステナブルを基盤としたシン・スタンダードの時代における施策を推進する。

【サステナビリティ推進体制】



SDGs目標達成へ向けた推進体制

全社員がサステナビリティへの意識を一層高め、これまでの取り組みを深化させるため、組織横断の「サステナビリティ委員会」を新設し、同委員会による推進体制へ変更しました(2022年4月1日)。



■ 製造における取り組み

副産物アップサイクル①

取組背景（目標）

2021年に発表した「Kanro Vision 2030」において、キャンディという枠を超えて新たな市場と製品の創造を目指す新事業「フューチャーデザイン事業」を発表。同事業の取り組みの1つとして、“キャンディ”から始まるサーキュラーエコノミーの実現を目指す。異業種企業と共に規格外で販売不可能な飴を日用品に変える再活用に取り組んでいる。

事例概要

・具体的な取り組み／製品ロスの高付加価値製品化の検討

<規格外で販売不可能な飴を活用したマスクスプレー／アロマスプレー等の開発>

キャンディの製造工程で発生する製品ロスを廃棄物として排出せず、アップサイクルの取り組みを行っている。これまでも食品ロスに積極的に取り組み、工場で排出される規格外で販売不可能な飴を飼料や肥料として活用してきた。今後はさらに再利用を促進していくべく、独自の発酵技術で未利用資源を再生・循環させる社会を構築する研究開発型スタートアップである株式会社ファームステーション（本社：東京都墨田区、代表取締役 酒井 里奈、以下 ファームステーション）をパートナー企業として、規格外の飴を再利用した日用品の開発に取り組んでいる。

ファームステーションの技術力と、素材を活かしているため不純物が少なく再活用しやすい当社の飴が結びつき、廃棄飴を発酵・蒸留することで、高純度・高品質のエタノールを精製。そのエタノールを活用し、オリジナルの「マスクスプレー」と「アロマスプレー」を試作した。2022年夏以降は規格外の飴から生まれたウェットティッシュ、手や指先をクリーンにする「HAND」のための雑貨をヒトツブカンロ earthブランドより順次販売した。

ヒトツブカンロ サステナブルライン商品発売



廃棄包材のアップサイクル



サステナブルなグミ「リミカングミ」発売



情報源

<< 会社HP >> 統合報告書 2023

<https://www.kanro.co.jp/csr/report/>

<< プレスリリース >> カンロ株式会社 2022年9月14日

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000330.000041274.html>

<< プレスリリース >> カンロ株式会社 2021年12月14日

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000248.000041274.html>

成果（見込含）

廃棄物量の削減

副産物アップサイクル②

取組背景（目標）

フューチャーデザイン事業の取組みとして、サステナビリティ・ウェルビーイングの2軸で異業種他社との協業を行ってきた。

2023年より、サステナビリティ軸でのさらなる取組みとして廃棄包材の活用に取り組み、デザインファーム会社株式会社ペーパーパレードと共創し、製造工程上どうしても出てしまう廃棄包材をアップサイクルした雑貨の開発・販売を行っている。

事例概要

・具体的な取組み／廃棄包材を活用したアップサイクル雑貨の販売

製造工程上どうしても出てしまう、廃棄包材は2022年実績で年間約73トンに及ぶ。この廃棄包材の中でも当社のブランド商品を活用し、アップサイクルした雑貨としてバック、サコッシュ、ペンケースを開発。

2023年8月から10月にかけて実施した当社初のクラウドファンディングプロジェクト「世界にひとつだけの、パッケージアップサイクル」を実施し、当初目標金額を上回る275%のご支援をいただいた。

当社として引き続きアップサイクルの取組みを継続していくとともに、より多くの方に手に取っていただけるよう、オンラインで手軽にご購入いただける商品として展開していく。



情報源

<< 会社HP >> (2024年2月27日リリース)
https://www.kanro.co.jp/files/topics/3487_ext_05_0.pdf

<< 会社HP >> (2023年12月13日リリース)
https://www.kanro.co.jp/files/topics/3401_ext_05_0.pdf

<< 会社HP >> (2023年10月12日リリース)
https://www.kanro.co.jp/files/topics/3336_ext_05_0.pdf

<< 会社HP >> (2023年7月27日リリース)
https://www.kanro.co.jp/files/topics/3227_ext_05_0.pdf

成果 (見込含)

廃棄物量の削減

資源循環・環境配慮素材への変更

事例概要

・具体的な取り組み／環境にやさしい素材を用いた商品容器の利用

“2030年までに商品容器に環境にやさしい素材（バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙等）を30%使用”をKPIに、環境負荷が少ない包材への切り替えを進めている。

2022年に発売10周年を迎えた「金のミルクキャンディ」※2のパッケージ（外袋）の14.8%にメカニカルリサイクルPETを使用している。今後もさらなる減容化や簡素化をすすめ、商品パッケージについても、環境配慮型素材への転換を図ることで環境負荷削減に取り組む。



情報源

<< 会社HP >> ～ サステナビリティ事業を通じた環境負荷削減～
<https://www.kanro.co.jp/csr/environment/>

<< 会社HP >> ～ 統合報告書 2023 ～
<https://www.kanro.co.jp/csr/report/>

成果 (見込含)

廃棄プラスチックの削減

温室効果ガス排出量削減

事例概要

• 具体的な取り組み

工場における環境管理を適切に行うために、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築。製造時のエネルギー使用については、生産の量やタイミングと連動した管理を行っている。また、原料や商品の構内移動を効率的に行ったり、不要な照明をこまめに消灯する等の省エネの取り組みも日常的に継続。さらに、クリーンエネルギー導入の一環として、太陽光発電パネルを設置。工場内には一日の発電量がわかるモニターを設置し、社員の意識啓発にもつなげている。



情報源

<< 会社HP >> ～ 2019年度版 コーポレートレポート～
<https://www.kanro.co.jp/csr/report/>

成果（見込含）

CO₂排出量の削減

■ 物流における取り組み

温室効果ガス排出量削減

事例概要

・具体的な取り組み／梱包資材の変更、サイズ変更

2019年には主要製品の内箱を段ボールからリサイクル可能なモノフィルムに変更することで、1ケースあたりの大きさを小さくし、製品輸送のCO₂排出量削減、梱包資材由来のCO₂排出量の削減を達成。物流コストの低減にも大きく寄与した。



情報源

<< 会社HP >> ～ サステナビリティ事業を通じた環境負荷削減～
<https://www.kanro.co.jp/csr/environment/>

成果（見込含）

CO₂排出量の削減

■ 販売における取り組み

資源循環・廃棄物排出量削減

事例概要

・具体的な取り組み／フードバンクの活用

賞味期限内であるにも関わらず、様々な理由から市場に流通できない食品を、食糧を必要としている福祉施設や貧困者に配布する「フードバンク活動」に参加。2017年末より「セカンドハーベスト・ジャパン」に協力を仰ぎ、廃棄物の削減を行いながら同時に社会貢献にもつながる活動として実施。

・具体的な取り組み／賞味期限の延長

品質への影響がないことが確認できた商品は、賞味期限を延長し、賞味期限切れによる廃棄物の削減に取り組んでいる。

- －海苔のはさみ焼き梅味：11 ヶ月→16 ヶ月（2015年3月～）
- －プチポリ納豆スナックしょうゆ味：6 ヶ月→12 ヶ月（2015年9月～）
- －56gピュレグミ：8 ヶ月→9 ヶ月（2015年2月～）

情報源

<< 会社HP >> ～ サステナビリティ事業を通じた環境負荷削減～
<https://www.kanro.co.jp/csr/environment/>

成果（見込含）

廃棄物量の削減